

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 のたまはず
① お思いになる ② 申し上げる ③ お聞きになる ④ おっしゃる
- 2 きこしめす
① ご覧になる ② お聞きになる ③ 申し上げる ④ お仕えする
- 3 おはします
① いらっしゃる ② 差し上げる ③ 参上する ④ お入りになる
- 4 おほす
① 申し上げる ② おっしゃる ③ 差し上げる ④ ご覧になる
- 5 うけたまはる
① 申し上げる ② お調べする ③ お受けする ④ お預かりする

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 忠岑も祿たまはりなどしけり。(大和物語)
(訳) 忠岑もほうびの品を「」などした。
① いただき ② くださり ③ お取り寄せ ④ お召しになり
- 7 官も賜はむと仰せ給ひき。(竹取物語)
(訳) 官職も下さろうと「」した。
① おっしゃつ ② お贈りになつ ③ お思いになつ ④ 申し上げ
- 8 使ひに祿たまへりけり。(伊勢物語)
(訳) 使いに「ほうびを」した。
① 命じられ ② 差し上げ ③ 頂戴し ④ お与えになつ
- 9 ここには、かく久しく遊びきこえて、慣らひたてまつれり。(竹取物語)
(訳) ここ(人間世界)では、このように長い間楽しく過ごし「」て、(あなた方にも)なれ親しみ申し上げました。
① てくださつ ② ておりまし ③ 申し上げ ④ なさつ
- 10 早う御文も御覽ぜよ。(落窪物語)
(訳) 早くお手紙を「」。
① 差し上げてください ② ご覧になってください ③ お見せしてください ④ いただいでください
- 11 後涼殿にもとよりさぶらひ給ふ更衣の曹司を、ほかに移させ給ひて、上局に賜はず。(源氏物語)
(訳) 後涼殿に、以前からお仕えなさっている更衣の部屋を、他の場所へお移しになって、(桐壺の更衣に)控えの部屋として「」。
① おつかわしになる ② お与えになる ③ お聞きする ④ 頂戴する
- 12 もの馴れのさまや、と君は思す。(源氏物語)
(訳) もの馴れたものだ、と君は「」。
① お思いになる ② おっしゃる ③ 申し上げる ④ ご存じである
- 13 供の者どもに問ひ給へば、「知らず」と申す。(平家物語)
(訳) 供の者たちに尋ねなされたところ、「知らない」と「」。
① お聞きする ② 申し上げる ③ お受けする ④ おっしゃる
- 14 かぐや姫をやしなひたてまつること二十余年になりぬ。(竹取物語)
(訳) かぐや姫を養育し「」ことは二十余年になった。
① なさる ② ております ③ 申し上げる ④ いただいく
- 15 これをなむ、身にとりては面歌と思ひたまふる。(無名抄)
(訳) これを、私としては代表歌だと思つ「」。
① ています ② いただく ③ ております ④ ている

15 「」

